日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

2版

様　式　Ｆ－７－２

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	家政学部
	職	講師
	氏名	須藤　良子

１．研究種目名　基盤研究(C)（一般）　　２．課題番号　16K00798

３．研究課題名　エジプト・コプトの染織品とインド更紗の制作年代および制作地の特定に関する研究

４．補助事業期間　平成２８年度～令和元年度

５．研究実績の概要

本研究では以下の内容で研究実績を積むことができた。
2018年 須藤良子「コプト裂およびプレ・コロンビアン染織裂に関する調査報告」『大妻女子大学家政系研究紀要』54号、須藤良子「日本で蒐集されたコプトの染織品について」姫路市立美術館『イメージを織る』展覧会カタログ、2019年　須藤良子'Report on Coptic Textiles in the Collection of Ashmolean Museum'『大妻女子大学家政系研究紀要』55号、須藤良子「エジプト・コプトの染織品とインド更紗の制作年代および制作地に関する研究」『月刊考古学ジャーナル』Vol.725、「コプト裂とインドの更紗」女子美術大学美術館『コプトの染織』展カタログ、2020年　岩永悦子「エジプトに渡ったアジュラック技法の蓮華文様インド更紗について」『福岡市美術館研究紀要』第8号
　これらの研究成果から、エジプトのコプト裂と称されている染織品には多くのインドで制作された更紗（ブロック・手描き）が存在することが分かり、それらの年代は古いもので700年代で多くのものは1200年代から1300年代であることが、放射性炭素年代分析の結果明らかとなった。エジプトのコプトの織物はウールと亜麻糸の織物で、綴れ織りの技法で織られていることはコプト裂が発掘され始めた1900年代から知られている事実ではあるが、発掘された多くの染織品を調査すると、コットンの捺染された染織品も含まれていることが分かる。これらは、素材や技法からインドの更紗であることが指摘できる。5世紀ころよりインドの木綿布が東南ジアをはじめアフリカまで流通していたことは多くの文献からも分かっている。今回は調査と科学的な手法により、それらの年代を明らかにすることができた。制作地についてはインドグジャラート地域の可能性が高いが、さらなる調査が必要である。

６．キーワード

コプト　インド更紗　藍　放射性炭素年代測定　ブロックプリント

７．研究発表

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 須藤良子	４．巻 55
２．論文標題 Report on Coptic Textiles in the Collection of Ashmolean Museum	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大妻女子大学家政系研究紀要	６．最初と最後の頁 189-191
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 須藤良子	４．巻 725
２．論文標題 エジプト・コプトの染織品とインド更紗の制作年代および制作地に関する研究	５．発行年 2019年
３．雑誌名 月刊考古学ジャーナル	６．最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 岩永悦子	４．巻 8
２．論文標題 エジプトに渡ったアジュラック技法の蓮華文様インド更紗について	５．発行年 2020年
３．雑誌名 福岡市美術館研究紀要	６．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 須藤良子	４．巻 1
２．論文標題 コプト裂とインドの更紗	５．発行年 2019年
３．雑誌名 コプトの染織　女子美術大学美術館カタログ	６．最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

８．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

９．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１０．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１１．備考

－